

【1】新市場販路開拓事業

1 収支決算額

- 収入決算額:62,803,483円
(県補助金2,040,000円 市受託事業収入1,666,666円、市負担金27,448,000円
事業収入14,468,817円 積立預金取崩収入17,180,000円)
- 支出決算額:60,350,641円

2 事業の成果

- 受注促進・販路開拓支援事業では、県外企業を中心に訪問した結果、引合い件数 589 件のうち 56 件(約 9.5%)の成約につながった。主な成約は、各種生活関連商品の製造と工業製品の製造の分野が高い比率を占めており、製造から表面処理を含む完成品までの対応が求められている。
また、航空宇宙関連分野やエネルギー関連分野など成長産業分野での成約事例がいくつか見られ、加工内容が高度化、複雑化する傾向にある。
- 技術系展示会出展事業では、地域企業 23 社と共同出展した「機械要素技術展」において、引合い件数 157 件で 9 件(約 5.7%)が成約につながり、金額にして約 6,800 万円の受注を獲得できた。
- アジア最大級のデザインイベント(グッドデザインエキシビション)に出展し、デザインの公的評価制度で多くの受賞数を誇る当地域のデザイン性の高さを PR と情報発信を行った。
- アンテナショップでの産地製品の販売 PR の他、近隣団地への出店や DM 配信また自主イベント等を通じ、燕三条からイメージされる工業製品以外の米等農作物も販売することで広く産地のイメージアップを図り、燕三条製品の販路拡大と情報発信に努めた。

3 実施事業

(1) 受注促進・販路開拓支援事業 (担当：企業支援課)

(収入決算額:5,883,000 円、支出決算額:5,569,416 円)

地域企業への新規受注獲得のため、県内外企業を中心に燕三条地域のものづくり技術力をPRした。また、企業訪問などによって得た引合い情報を地域企業に提供することにより、56 件の成約につながった。

	受注斡旋(件)				引合件数 小計	各種 相談
	成約	見積 検討中	対応企業 紹介	不成約		
H24 年度	56	48	469	16	589	149
H23 年度	44	72	447	27	590	179
H22 年度	37	49	422	10	518	140

◆ 引合いの主な分野

①表面処理(80 件 12.8%)、②機械加工(77 件 12.3%)、③工業製品の製造対応(59 件 9.4%)

◆ 成約の主な分野

①生活関連商品の製造(14 件 25%)、②工業製品の製造対応(11 件 19.6%)、③表面処理(7 件 12.5%)、④機械加工(6 件 10.7%)など。

◆ 受発注打合せ件数

	地域内 (市内) 企業訪問	地域外 (県内) 企業訪問	県外企業 出張訪問	県内企業 来室 打合せ	県外企業 来室 打合せ
H24 年度	675	20	113	174	165

H23 年度	663	29	127	191	138
H22 年度	501	27	89	160	158

- ◆ 産業振興部登録企業約 500 社を対象に、最近の受注動向や技術・商品開発情報などを FAX で配信した。(リサーチコア通信、全 9 回発行)

(2) 技術系展示会出展事業(担当:企業支援課)

(収入決算額:23,269,000 円、支出決算額:22,070,918 円)

- ◆ 全国各地で開催の展示会に地域企業と共同出展し、燕三条地域の特徴的な加工部品・新商品を展示PRし、会期中並びに会期後のフォローアップ活動により新規受注開拓を行った。
- ◆ 機械要素技術展及び関西機械要素技術展では、それぞれの展示会で外部アドバイザーを委嘱し、共同出展企業を対象に展示方法やアテンドの方法などについて指導していただき、来場者の目に留まるよう効果的な出展を行った。

名 称 (会場)	開催期間 (共同出展数)	来場者数 (H23 参考) (H22 参考)	引合い件数 (H23 参考) (H22 参考)	成約件数 (H23 参考) (H22 参考)
① 第 16 回機械要素技術展 (東京ビッグサイト)	H24.6/20-22 (23 社)	86,001 (84,509) (84,354)	157 (149)〈25 社〉 (66)〈5 社〉	9 (12)〈25 社〉 (4)〈5 社〉
② 第 15 回関西機械要素技術展 (インテックス大阪)	H24.10/5-7 (9 社)	30,673 (34,778) (32,106)	108 (80)〈5 社〉 (106)〈5 社〉	9 (3)〈5 社〉 (3)〈5 社〉
③ 諏訪圏工業メッセ 2012 (諏訪湖イベントホール)	H24.11/15-17 (単独)	24,733 (25,928) (24,180)	18 (-) (-)	3 (-) (-)
④ 第 2 回次世代ものづくり基盤技 術産業展(ポートメッセなごや)	H24.11.28-30 (単独)	18,986 (20,901) (-)	13 (-) (-)	0 (-) (-)
⑤ テクニカルショウヨコハマ 2013 (パシフィコ横浜)	H25.2/6-8 (5 社)	29,118 (30,912) (30,176)	31 (41)〈5 社〉 (41)〈5 社〉	1 (3)〈5 社〉 (0)〈5 社〉

(※引合い件数:試作依頼、見積検討、図面照会、後日訪問相談数の合計)

(3) 商品系展示会出展事業(担当:デザイン企画課)

(収入決算額:3,456,000 円、支出決算額:3,443,178 円)

- ◆ デザイン評価制度への取組支援

① 応募説明会:H24 年 5 月 18 日(金)14:00~16:30

講 師:公益財団法人 日本デザイン振興会 事業部課長代理 川口 真沙美 氏
 特 別 講 演:(株)ハーズ実験デザイン研究所/METAPHYS 代表 ムラタ チアキ 氏
 参 加 者:56 人

② Good Design Award 2012 燕三条受賞商品プレゼンテーション

開 催 日 時:H24 年 12 月 5 日(水)15:00-17:30
 表 彰 式:公益財団法人 日本デザイン振興会 事業部課長代理 秋元 淳 氏
 特 別 講 演:澄川伸一デザイン事務所 代表 澄川 伸一 氏
 パ ネ ラ ー:澄川 伸一 氏

有限会社 永塚製作所 専務取締役 能勢 直征 氏
 有限会社 エフディー 代表取締役 萩野 光宣 氏

参加者:40人

名称(会場)	開催期間 (受賞企業数)	来場者数 (H23参考) (H22参考)	概要
GOOD DESIGN EXHIBITION2012 (東京ビッグサイト)	H24.11/23-25 (8社)	40,804 (42,359) (44,325)	グッドデザイン賞(Gマーク)受賞品の一般公開
Good Design Award 2012 (リサーチコア)	H24.12/5 (12件・8社)	参加者 40[人]	Gマーク燕三条受賞商品のプレゼンテーション

(4) 農商工連携産地製品販売促進事業(担当:物産観光課)

(収入決算額:30,195,483円、支出決算額29,267,129円)

店舗名	売上金額	収入金額
えちご燕物産館両国店	17,487,062円	5,242,518円
えちご燕物産館町田店	18,329,376円	6,095,891円

【自主イベント等の内容】

店舗	イベント名称	開催期間
町田	藤の台団地出張販売	H24.6/2~3(2日間)
両国	新米フェア	H24.10/4~6(3日間)
町田	新米フェア	H24.10/5~7(3日間)
町田	閉店セール	H24.12/22~24(3日間)
両国	閉店セール	H25.2/22~23(2日間)

【2】企業開発力強化事業

1 収支決算額

- 収入決算額:65,337,497円
(事業収入4,693,800円、国受託事業収入43,821,697円、市負担金16,822,000円)
- 支出決算額:61,878,641円

2 事業の成果

- 平成23年度に立ち上げた「試作・小ロット品対応力強化プロジェクト」では、東京大田区で開催の「試作市場 2012」への出展及び新潟大学と長岡造形大学で実施したミニ展示会において、自動車関連の試作品や小ロット品、実験装置、卒業制作品などの引合いを受け、各企業が連携して対応し成約に結び付けた。
- 産学連携共同研究開発事業では、「地域企業で重要な要素技術の高度化」「ベテラン職人の技を数値化することによる技能継承」「成長産業分野へ参入するための情報調査」を目的に、4テーマの研究会を実施した。地域企業から延べ106社(126人)の参加があり、各企業へ情報や試験結果などを提供した。
- 地域企業からの各種相談(知的所有権、材料、表面処理、溶接、プレス加工、生産管理、商品開発、商品企画・デザインなど)では、当センター技術及びデザイン担当職員、並びに外部の専門家と連携しながら対応し、課題解決の糸口を見出すことができた。(延べ134件・101社)
- リサーチコア1階テクノセンター内に設置の機械装置及び測定機器等の利用状況は、定期的な機器利用説明会の実施や地域企業への積極的なPR効果などにより、昨年度と比較して利用件数で約1.4倍に増加した。

3 実施事業

(1) 試作・小ロット品対応力強化プロジェクト事業(担当:技術開発課)

(収入決算額:1,520,000円、支出決算額:1,430,853円)

プロジェクト参加企業のネットワークによる小ロット品や、試作開発品に特化した受注活動を進めた。「試作市場 2012」(東京大田区、4/26~27)に出展し、自動車関連の試作品や小ロット部品などの数点を受注した。また、新潟大学と長岡造形大学の学内でミニ展示会を開催し、試験装置や実習機器等の装置や部品の加工の依頼を受け連携関係を構築した。

- ◆ 期間(回数):H24年4月~H25年3月
(東京都内展示会:1回、県内大学ミニ展示会:2回、研究会:8回)
- ◆ 指導者:マネジメントオフィス KOB A 代表 小林 貞夫 氏(中小企業診断士)
- ◆ 参加者:29人(29社)

(2) 産学連携共同研究開発事業(担当:技術開発課)

(収入決算額:2,616,000円、支出決算額:2,370,382円)

① 接合技術に関する研究会

会員企業の共通課題である薄板の低歪み溶接技術をテーマに研究会を進めた。ファイバーレーザーに局所冷却を組み合わせた低歪み溶接や、残留応力の評価方法などのセミナーを4回行った。また、薄板溶接の変形の対策と解明としてジェットクーラーを使った局所冷却や高速度カメラによる熔融池観察を行い、実験結果を会員企業に紹介した。

- ◆ 期間(回数):H24年4月~H25年3月(研究会4回)
- ◆ 指導者:長岡技術科学大学 機械系 准教授 宮下 幸雄 先生
- ◆ 参加者:54人(43社)

② ナノテク・技能情報高度化研究会

各種刃物の表面性状を測定し、刃先形状の定量評価方法の研究を行った。昨年度導入した高精度 3D レーザー顕微鏡を用いて、包丁やはさみの刃幅・角度・粗さなどの刃先形状をナノオーダーで評価する方法を確立し、会員企業に紹介した。

- ◆ 期間(回数):H24 年 4 月～H25 年 3 月(研究会4回)
- ◆ 指導者:長岡技術科学大学 機械系 教授 柳 和久 先生
- ◆ 参加者:24 人(18 社)

③ ソフトエネルギー技術研究会

太陽光発電などの分散型発電機器や周辺技術などの調査研究を行った。本年度はメガソーラー発電所の見学会を行い、ソーラーパネルの各種架台や取付け金具等の現状の調査を進め、会員企業が参入するための情報提供を行った。

- ◆ 期間(回数):H24 年 4 月～H25 年 3 月(研究会 3 回)
- ◆ 指導者:長岡工業高等専門学校 電気電子システム工学科 教授 片桐 裕則 先生
- ◆ 参加者:27 人(24 社)

④ 航空機産業参入研究会

航空機部品のスクラップを利用した記念品の種類を増やし販路拡大を進めた。また本研究会の分科会である米国向けレジャー用航空機(LSA)の開発プロジェクトも立ち上げ、広く航空機産業に参入するための活動を続けた。

- ◆ 期間(回数) H24 年 4 月～H25 年 3 月(研究会 3 回)
- ◆ 指導者:株式会社 ATR ヤマト 代表取締役 吉田 宗玄 氏
- ◆ 参加名:21 人(21 社)

(3) 技術開発総合支援事業(担当:技術開発課)

(収入決算額:4,070,800 円、支出決算額:3,007,897 円)

① 知的所有権相談事業

当地域の産業に精通した弁理士から特許や実用新案、意匠などの知的所有権を戦略的に活用するため、月1回の個別相談会を実施した。意匠や実用新案などの出願 7 件、登録 5 件の実績を得た。

- ◆ 指導者:ジーベック国際特許事務所 所長・弁理士 清水 善廣 氏、弁理士 小松 悠有子 氏
- ◆ 相談件数:44 件(25 社)

② 相談きっかけ支援

地域企業の生産管理、営業技術、商品開発などの課題解決のため、各分野の専門家を直接企業に派遣し課題解決に向けてのアドバイスをを行った。

- ◆ 派遣専門家:8 名(対象企業:10 社・10 件)

③ 技術相談

当地域企業が抱える材料、表面処理、溶接及びプレス加工などの各種技術課題について、当センター技術職員が企業を訪問してアドバイスをを行い、課題解決策を提案した。

- ◆相談件数:56 件(46 社)

④ 機器利用促進

当センター所有の機械設備の利用促進を図るため、個別機器利用説明会及びリサーチコアテクノセンター内の機械設備見学・説明会を 4 回実施した。

【機械設備利用状況】

名 称	H24 年度	H23 年度	H22 年度
3D測定レーザー顕微鏡	38	-	-
多関節型 3 次元デジタイザー	4	16	8
蛍光X線分析装置	55	25	26
走査型電子顕微鏡	30	21	30
レーザーマーカー	100	64	25
デジタルマイクロスコープ	14	11	15
3 次元デジタイジング装置	11	11	9
FEM シミュレーションシステム	3	1	0
3 次元デザイン CAD システム	14	19	11
高速度デジタルビデオカメラ	4	6	4
万能塑性加工試験機	13	13	9
HIP 装置(熱間等方加圧装置)	112	101	78
合 計	398	288	215

(4) デザイン開発支援事業(担当:デザイン企画課)

(収入決算額:3,326,000 円、支出決算額:2,961,397 円)

- ◆ 商品企画・デザイン個別相談:24 件 42 回(20 社)
- ◆ デザイン研究会事務局:つばめデザイン研究会、燕三条デザイン研究会(総会、グループ例会)
- ◆ 県内のデザインネットワークを活用し、デザイン啓発とデザイナーと企業とのビジネスマッチングを図るためのイベントを開催した。

名 称(会場)	開催期間	投票者数	概 要
新潟 DNA 「リ・デザインエキシビション 2013」 (メッセピア・燕三条wing)	H25.2/19-3/4	479[人]	地域商品 3 点をテーマにした デザインコンペを開催。 参加デザイナー:40 名 デザイン提案:59 点

(5) 生活デザイン産業創出事業(担当:デザイン企画課)

(収入決算額:3,495,000 円、支出決算額:2,968,876 円)

- ◆ 概 要:生活関連分野において地域企業で製造可能なアイテムを包括するテーマを設定し、ワークショップを開催。新たな暮らしの提案で市場を作り出す商品群の開発を行った。
- ◆ 期間(回数):H24 年 8 月 24 日～H25 年 3 月 14 日 (全 9 回)
- ◆ 指 導 者:株式会社 クルー 馬場 了 氏、峯特許事務所 弁理士 峯 唯夫 氏
- ◆ 参 加 企 業:3 社(募集 4 社)
- ◆ テ ー マ:既存建物を傷めず容易に設置可能なフレームに、多様な専用アイテムを取り付けることにより、様々な趣味の空間を創り出すことができる商品群の開発。

- ◆ 成 果:1)基本フレームのデザイン・設計・試作を完了した。
2)参加企業の個別テーマ設定し想定シーンのデザインを行った。
- ◆ 今後の計画:試作した基本フレームを公開し、参加企業の追加募集を行う。また、H24 年度の取組企業の個別アイテムの開発及び評価モデルの作成などを行っていく。

(6) 燕三条ものづくり連携フォーラム開催事業(担当:技術開発課)

(収入決算額:4,688,000 円、支出決算額:4,455,203 円)

当地域と他地域の技術コラボレーションを図ることを目的とした「燕三条ものづくり交流展」、並びに当地域の技術力や開発品を国内外に向けて発信する「燕三条ものづくり連携フォーラム」を開催した。

① 燕三条ものづくり交流展

- ◆ 会 期:H24年7月26日～27日(26日:12:00～17:00、27日:10:00～17:00)
- ◆ 出 展 者:46社・団体
- ◆ 来 場 者:926名(26日:436名、27日:490名)
- ◆ 照会件数:426件(展示会終了時のアンケート結果による。)
- ◆ マッチング件数:8件(研磨用治工具、マイクロスコープ、電動工具、砥石など)

② 燕三条ものづくり連携フォーラム

- ◆ 会 期:H24年9月25日～27日
(25日:13:00～17:00、26日:10:00～17:00、27日:10:00～13:00)
- ◆ 出 展 者:54社・団体(燕三条地域企業31社、ものづくり日本大賞受賞企業3社、産学官連携5団体、支援機関9団体、台湾企業6社・団体)
- ◆ 来 場 者:1,351名(25日:188名、26日:744名、27日:419名)

(7) 地域間連携共同研究開発事業(新規)(担当:技術開発課)

(収入決算額:1,800,000 円、支出決算額:1,644,030 円)

東北大学金属材料研究所で開発し、岩手県の企業、大学、研究機関等で実用化した耐食・耐摩耗性に優れるニッケルフリーコバルトクロム合金材料を購入し、燕三条地域で得意とする熱間鍛造により高機能刃物の試作を進めた。鉄の鍛造試験では、材料の塑性流動性が低いために、薄い部分や穴の加工性に課題が残るものの概ね目的の形状を得ることができた。

- ◆ 期間(回数):H24年9月～H25年3月(試作検討会8回)

(8) 戦略的基盤技術高度化支援事業(担当:企業支援課)

(収入決算額:43,821,697 円、支出決算額:43,040,003 円)

ケイセイエンジニアリング株式会社を中心とする企業グループが、今年度から実施する『生体適合性プラスチック材料を用いた革新的医療用縫合針の研究開発』において、当センターは事業管理機関として研究開発推進委員会を3回開催し、研究開発実施機関7社、アドバイザーとともに研究開発の進捗管理を行った。

3年計画(予定)の初年度の平成24年度では、生体適合性プラスチック針の開発に向けて試作設備と試験設備を導入し、針の材料選定及び試作を行った。

【3】燕三条ブランド推進事業

1 収支決算額

○ 収入決算額:25,522,693円

(国庫補助金7,196,693円、県補助金500,000円、その他負担金500,000円
市負担金17,161,000円、繰越金165,000円)

○ 支出決算額:23,546,708円

2 事業の成果

燕三条プライドプロジェクトの各グループが中心となって進めている、ものづくりや産業観光などの活動を支援し、燕三条ブランド事業の推進に努めた。

- 製品開発:「男のキッチンツール」をシリーズ化し、鉄板焼き用のヘラとトングの試作品を完成させた。
- 展示会出展:国内外への展示会へ出展し、燕三条ブランドのPRや販路開拓に努めた。
 - ・ 東京インターナショナル・ギフト・ショー 春 2013
 - ・ アンビエンテ・メッセ・フランクフルト 2013
 - ・ FOOD EX JAPAN 2013
- 燕三条まちあるき事業の推進:燕三条まちあるき連絡協議会主催の“燕三条ものづくりの心に出会う「まちあるき」”をテーマとした様々な体験、観賞、食などのプログラムを集めたイベントの企画、調整に参画した。
- 「畑の朝カフェ」事業の推進:プライドプロジェクトメンバーを中心に、実行委員会を組織し、事業を実施するに当たり、企画、調整に参画した。

3 実施事業

(1) 燕三条ブランド推進事業

(収入決算額:2,156,000円、支出決算額:1,756,059円)

① 燕三条ブランド検討委員会の開催

燕三条地域の商工会議所、商工会、観光協会などの代表や役員等で委員会を組織し、燕三条ブランドの事業案及びブランドマーク使用申請、製品認証について検討・承認を行った。

開催日	協議題
第14回 平成24年6月1日	・平成24年度燕三条ブランド事業計画(案)について ・燕三条ブランド製品の認証について
第15回 平成24年10月12日	・平成25年度燕三条ブランド事業方針(案)について
第16回 平成25年1月8日	・燕三条ブランド推進会議設置要綱の制定について ・各種見本市への出展について ・燕三条ブランド製品の認証について

② 燕三条プライドプロジェクト会議の開催

プロダクト、レストラン、ツーリズム、プロモーションの各グループリーダー等が中心となって燕三条ブランド確立に向けて協議を行った。

グループ名	会議開催数(回)
プロダクトグループ	3
レストラングループ	19

ツーリズムグループ	17
プロモーショングループ	2

(2) 広報活動事業

(収入決算額:3,800,000 円、支出決算額:4,423,756 円)

① 燕三条産の高品質な商品をフェイスブックに掲載し、広域的な集客、販路開拓を継続的に図っていく。

- ◆ Face book ページの開設
- ◆ FB 良品サイトの参加(H24.10.15～)

② 燕三条まちあるき

燕三条まちあるき連絡協議会主催のまちあるきイベントに、コースエントリーや企画調整など参画し、秋のイベントでは地域の歴史や歴史的建造物の講演会を取り入れたコースを企画、実施した。

1) 2012 春開催実績

- ◆ 開催期間: 平成 24 年 3 月 23 日～5 月 27 日
- ◆ コース数: 17 コース+1 イベント
- ◆ 参加人数: 373 人+70 人

2) 2012 秋開催実績

- ◆ 開催期間: 平成 24 年 9 月 22 日～11 月 18 日
- ◆ コース数: 19 コース+6 イベント
- ◆ 参加人数: 270 人+62 人

③ 燕三条グリーンツーリズム事業の推進

燕三条をフィールドに自然体験等の活動に取り組んでいる団体の発掘を行い、各団体のイベント等を集約したパンフレットを製作して県内公共施設等に配布した。

④ 燕三条の農産品加工品 PR

「料理王国100選 2013」に応募し、2アイテムが選出された。

- ◆ ルレクチェのドライフルーツ
- ◆ かきのもと (食用菊)

⑤ 燕三条 Wing の情報発信機能の充実

燕三条 Wing で観光コンシェルジュ業務として、燕三条を訪れた観光客やビジネスマンを始めとする来訪者からの相談や照会に応じて、観光スポットや観光コースなどの提案を行った。

* 月別対応件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
H24	29	71	76	49	71	77	54	63	36	56	65	70	717
H23	9	52	56	47	67	64	63	68	27	24	27	42	546

⑥ 燕三条エフエム放送・燕三条 Wiki によるブランド PR や地域情報の発信

ブランド事業の活動状況や各種情報を発信するため、燕三条エフエム放送で月2回(平成24年度計24回)、燕三条ブランド通信を放送した。

また、燕三条の地域情報及び、地域内での情報共有を目的として燕三条 Wiki の運営を行った。

燕三条 Wiki のホームページへは、約 63,000 件/年のアクセスがあった。

⑦ 燕三条地域のイベント情報の集約と発信

燕三条及び周辺地域で行われる季節ごとのイベント情報を一元的に集約し、当センターのホームページ「燕三条夢創紀行」にて、旬の情報を発信した。

⑧ 燕三条 Wing PR イベントの実施(営業推進部と協働)

上越新幹線開業30周年記念に併せたイベントとして、新潟大学鉄道研究部の協力を得ながら、鉄道写真展示や模型の運転会、鉄道グッズの展示などを燕三条 Wing で実施、大人から子供まで多くの来店者があり、施設のPRにもつながった。

◆ 開催期間：平成24年11月10日～11月15日

◆ 期間中来店者数：2,145人(前年同期間:1,167人)

⑨ 燕三条「畑の朝カフェ」によるブランドコミュニケーション事業

食の宝庫である燕三条地域の生産現場と生産者の魅力を十分に知っていただくため、体験型カフェの燕三条「畑の朝カフェ」を開催した。

◆ 開催回数：4回

◆ 参加者：174人

(3) 展示会出展事業

(収入決算額:3,107,000円、支出決算額:2,972,793円)

レストラングループの地名山野菜プロジェクトが主体となって、FOODEX JAPAN2013 第38回国際食品・飲料展に出展し、燕三条産農産物・加工品の提案及び燕三条「畑の朝カフェ」プロジェクトのPRを行った。

◆ 期間：平成25年3月5日～8日

◆ 会場：幕張メッセ

◆ 来場者数：71,536人

(4) JAPAN ブランド事業 (収入決算額:16,459,693円、支出決算額:14,394,100円)

【国内外展示会への出展】

燕三条ブランド検討委員会で認証した製品やプロダクトグループで開発した鉄板焼きツールのPR、販路拡大のため国内外の展示会に出展した。

① 東京国際・ギフト・ショー 春2013

◆ 期間：平成25年2月6日～8日

◆ 会場：東京ビッグサイト

◆ 来場者数：196,105人

◆ 出展ブースのコンセプト

燕三条ブランドの「organic lifestyle creations」の基本コンセプトに合致した各種金属製品を「ミュージアム」をテーマとして展示した。

② アンビエンテ・メッセ・フランクフルト2013

◆ 期間：平成25年2月15日～19日

◆ 会 場 : ドイツ フランクフルト国際見本市会場

◆ 来場者数 : 約 140,000 人

◆ 出展ブースのコンセプト

燕三条ブランドの基本コンセプトである「オーガニックなライフスタイル」に合致した燕三条産品を
展示した。

【4】企業人材育成事業

1 収支決算額

- 収入決算額:12,928,000円
(事業収入4,683,000円、市負担金8,245,000円)
- 支出決算額:11,587,881円

2 事業の成果

- ものづくり技術営業力強化事業では、地域企業の提案型技術営業力の強化を図るため、専門家の指導により参加企業（4社）が自社の強み・弱み等を分析し、新規受注獲得のための知的資産報告書をまとめた。また、受注獲得に向け顧客から興味を持っていただけるプレゼンテーション能力向上のための研修を行った。
- 燕三条ものづくり大学事業（技術研修講座）では、当地域のものづくり企業で必要となる「金属材料」、「図面の見方・描き方」、「溶接」、「機械加工」、「表面処理」、「電気・制御」など基礎的技術の習得を図るための技術講座（9講座）を開講し、募集定員120人に対し162人（約1.4倍）の参加者があった。
- 戦略的ものづくり経営力強化事業では、産業グローバル化に対応できるマネジメント能力を有する人材育成を進めるため、新潟大学大学院技術経営研究科（新潟大学 MOT）と包括連携協定を結び、記念講演会や技術経営セミナーを開催し、これからの企業経営について意見交換を行った。

3 実施事業

(1) ものづくり技術営業力強化塾事業(担当:企業支援課)

(収入決算額:810,000円、支出決算額:385,406円)

顧客への営業力を高めることを目的に、自社の強み・弱みを分析して会社の優位性をアピールするポイントについての実践的講習会を開催した。また、自社の強みを分析するほかにお客様とのコミュニケーション能力を向上させるための演習も実施した。

- ◆ 期間(回数):H24年9月28日～12月6日(座学・演習5回、先進企業見学会1回)
- ◆ 指導者:コンサルリンク株式会社 代表取締役 七澤 教一 氏(中小企業診断士)
- ◆ 参加者:5人(4社)

(2) 燕三条ものづくり大学事業(技術研修講座)(担当:技術開発課)

(収入決算額:2,770,000円、支出決算額:2,031,387円)

地域企業の製造・開発部門において必要となる金属材料、溶接技術、精密板金設計など基礎的技術の習得を図るための講習会を開催し、地域企業の技術力の向上を図った。

研修講座名	期間(時間×回数)	募集(人)	実績(人)
① 金属材料基礎講座	H24.5/22-8/7 (2h×12回)	20	17
② 図面の見方・描き方入門講座	H24.8/7-9/14 (2h×9回)	20	33
③ 溶接技術集中講座	H24.7/15-7/19 (3h×3回)	10	21
④ 機械加工技術集中講座	H24.8/23-9/4 (3h×4回)	10	15
⑤ 表面処理技術集中講座	H24.11/13-11/27 (3h×3回)	10	17
⑥ 電気・制御技術集中講座	H24.10/30-11/6 (3h×3回)	10	15
⑦ 知財活用技術講座	H25.2/27-3/5 (3h×3回)	10	11

⑧ 軽金属材料集中講座	H24.10/10-10/24 (3h×3回)	15	17
⑨ 板金展開図集中講座	H25.2/16 (7h×1回)	15	16
合計	41回・106時間	120	162

(3) 企業向けIT関連支援事業(担当:支援情報課)

(収入決算額:8,338,000円、支出決算額:8,119,658円)

企業においてITを有効活用できる人材を育成するため、企業向けのIT講座を開催した。また、最新の企業支援情報をホームページ・メールマガジン(月2回)で発信したほか、今年度から新たにリサーチコア事業のPRと活用促進のため、広報誌「リサーチコアレポート」(年3回)を発行した。

研修講座名	期間(時間×回数)	募集(人)	実績(人)
① 初心者のための Adobe Illustrator 講座	H24.5/29-6/12 (3h×5回)	5	5
② Excel を使って学ぶ原価計算/原価管理講座	H24.6/5-6/21 (2h×6回)	20	18
③ 基本から学ぶ販促ツールデザイン講座(1)	H24.7/12-7/26 (2h×3回)	5	4
④ 基本から学ぶ販促ツールデザイン講座(2)	H24.8/7-8/28 (2h×3回)	5	5
⑤ ホームページの売上を劇的アップさせる秘訣セミナー	H24.8/20-9/3 (2h×5回)	20	18
⑥ 基本から学ぶ販促ツールデザイン講座(2)	H24.10/31-11/27 (2h×5回)	5	5
⑦ PowerPoint ビジネス活用講座	H24.11/5-11/19 (2h×5回)	20	5
⑧ 初めての Facebook ページ作成講座	H25.1/22-2/5 (2h×5回)	20	17
⑨ 初心者のための Adobe Illustrator 講座	H25.1/29-2/12 (3h×5回)	6	6
⑩ ワードの作法・利活用講座	H25.2/15-3/1 (2h×5回)	20	6
合計	47回・104時間	126	89

◆ 情報関連機器の貸出し状況

貸出機器名	貸出件数(件)	利用料金(円)	備考
パソコン	15	576,500	情報研修室、貸出し用 PC
プロジェクタ 他	8	27,500	

◆ メールマガジンの発行

- ・毎月2回 年間24回配信
- ・掲載情報件数 392件
- ・3月末メルマガ配信登録者数 617件

◆ 研修・教育用ビデオテープの貸出し

- ・貸出し件数 18件
- ・貸出し本数 49本

◆ 広報誌「リサーチコアレポート」の発行

第1号(6月)・第2号(9月)・第3号(12月)

(4) 戦略的ものづくり経営力強化事業(新規)(担当:企業支援課)

(収入決算額:1,010,000円、支出決算額:1,051,430円)

産業グローバル化に対応できるマネジメント能力を有する人材育成を進めるため、新潟大学大学院技術経営研究科(新潟大学 MOT)と包括連携協定を結び、記念講演会や技術経営セミナーを開催し、これからの企業経営について意見交換を行った。

① 包括連携協定調印式

- ◆ 日 時:H24年7月26日 15:30～15:45
- ◆ 会 場:燕三条地場産業振興センター(メッセピア)4階 特別会議室
- ◆ 調印者:(財)燕三条地場産業振興センター 理事長 鈴木 力(燕市長)
新潟大学大学院技術経営研究科 研究科長・教授 野中 昌法 氏

② 記念講演会:(2テーマ)

- ◆ 日 時:H24年7月26日 15:50～17:30
- ◆ 会 場:燕三条地場産業振興センター(メッセピア)5階 総合研修室
- ◆ テーマ①:日本企業とグローバル化 ～中小企業・地域企業の国際戦略～
講師:新潟大学大学院技術経営研究科 特任教授 田中 亨 氏
- ◆ テーマ②:地域と産業のブランド化 ～その考え方と方向性～
講師:新潟大学大学院技術経営研究科 准教授 長尾 雅信 氏
- ◆ 参加者:40人(20社・団体)

③ 技術経営セミナー「燕三条のものづくりと大学での学びは経営に役立つのか」

- ◆ 日 時:H24年11月8日、15日、22日、29日(全4回)
- ◆ 内 容:①農商工連携による地域興し、②光の科学と工業への活用事例、③環境負荷を低減する化学プロセスの開発技術事例、④最も難しい「ひと」のマネジメント
- ◆ 参加者:12人(11社・団体)

④ グローバル化に対応するための連携調査

- ◆ 目 的:台湾企業との連携による中国及び東南アジア地域への販路開拓及びビジネス拡大の可能性について調査。
- ◆ 日 程:H25年3月6日～9日(4日間)
- ◆ 訪問先:台湾工業技術研究院 他4社(機械・金属関連の先進企業及び商社)
- ◆ 参加者:6人

【5】需要開拓事業

1 収支決算額

- 収入決算額:125,954,031円
(事業収入125,954,031円)
- 支出決算額:66,367,377円

2 事業の成果

- 展示・即売事業では、消費者ニーズに合わせた市場性のある販売品目の品揃えの拡充を目指し、即売場のレイアウト変更を行うと同時に燕三条産品の良さを、自主イベントの開催や両市と連携した各種イベントへの積極的な参加等を通じ、県内外の消費者に PR することで産地製品の販路拡大に努めた。
- 誘客宣伝では地域観光資源を生かした企画立案を行うとともに、首都圏を含めた近隣地域への積極的な誘客宣伝活動を行った結果、観光バス来館台数は前年対比で一割増加、またインターネットショップ運営では、掲載商品や特集ページの追加とともにプレゼント企画等を行うことによりサイトへの誘導を行った結果、売上の増加につながった。
- 燕三条駅観光物産センター事業では、来場者数はJR利用者を中心に増加し、燕三条製品がメディアに取り上げられたこともあり話題性の高い商品が売上増の要因となり前年を大きく上回り、燕三条製品のイメージアップに貢献した。

3 実施事業

(1) 展示・即売事業

(収入決算額:105,952,696 円、支出決算額 51,407,761 円)

- ① 展 示 330 小間 収入 6,920,000 円
- ② 即 売 売上金額 249,741,769 円 収入 93,177,362 円

【自主イベント等の内容】

イベント名称	開催期間	来場者数
GW フェア	H24.5/3~6(4日間)	約 16,810 人
お盆フェア	H24.8/11~15(5日間)	約 10,680 人
年末刃物特価市	H24.12/7~9(3日間)	約 8,127 人
観光バス来館	通 年	約 1,221 台

(2) 燕三条駅観光物産センター事業

(事業収入 20,001,335 円、支出決算額 14,959,616 円)

- ① 展 示 168小間 収 入 2,508,000 円
- ② 即 売 売上 48,059,963 円 収 入 16,979,565 円

【6】収益事業

1 収支決算額

- 収入決算額:136,499,236円
(事業収入136,499,236円)
- 支出決算額:78,840,518円

2 事業の成果

- 全国地場産センターの優れた地場産品を広く集めた「大じばさん展」の開催や新潟をイメージする特産品を扱うことにより、一般消費者が来場しやすい場を提供し、多くの集客を図ることで燕三条製品の効果的なPRと販売の拡大に努めた。
- 地域内における深耕開拓を行うとともに、地域外の新規開拓についてはDM発送を行い利用の拡大に努めた。また、利用者の満足度を向上させ、次回利用につなげるために、打合せを密にとり利用者が滞りなく事業遂行ができるように心掛けた。
- 施設利用者及び来訪者へのPRとして、センター正面入り口にインフォメーションを設け、レストラン利用の促進に努めた。また、地産地消に重きを置いたメニュー開発に取り組み、報道機関を利用して広くPRに努めた。今年度の売り上げ増の要因としては、多目的ホール利用者への飲食提供、懇親会、近隣ホテル宿泊団体への食事提供が挙げられる。

3 実施事業

(1) 他地域連携販売事業

(収入決算額 4,884,498 円、支出決算額 2,780,809 円)

地域外取扱商品販売金額	11,854,335 円
他地場産センター商品販売金額	4,912,246 円

(2) 貸館事業

(収入決算額 65,488,772 円、支出決算額 14,385,794 円)

【会場利用状況】

- ◆ 施設利用者数:211,644 名(前年度 166,357 名)
- ◆ 施設利用状況(金額・利用率)

施設名	24年度	23年度
メッセピア	50,631,972 円	46,811,346 円
1F:多目的大ホール	31.2%	24.6%
3F:中会議室	38.0%	42.0%
4F:大会議室	40.8%	41.0%
4F:特別会議室	7.4%	7.5%
4F:小会議室(和室)	30.8%	27.6%
5F:総合研修室	40.7%	43.6%
5F:ミーティングルーム	50.2%	49.7%
リサーチコア	15,968,300 円	17,296,200 円
6F:研修室	30.1%	29.7%
7F:マルチメディアホール	27.5%	32.8%

(3) レストラン運営事業

(収入決算額 66,125,966 円、支出決算額 61,673,915 円)

【レストラン収入決算額の推移】

年度	収入決算額
平成 24 年度	66,125,966 円
平成 23 年度	57,351,545 円
平成 22 年度	59,355,145 円

附 属 明 細 書

平成24年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」に規定する附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に該当の事項はありません。